

## 一般演題 2-2

### 第一種装置における治療環境について考える

間中泰弘 天野陽一 藤田智一 吉里俊介

水谷 瞳 山之内康浩

医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院 臨床工学科

#### 1. はじめに

第一種装置内の空間は狭く、身動きがとりづらい状況にも関わらず治療環境への配慮は十分とはいえない。

当院も治療患者から「マットが硬くて、腰が痛い。とても耐えられない。」「治療を続けられない。」との訴えがあり、これを契機として第一種装置における治療環境を見直し、改善を図ることとした。

#### 2. 対象および方法

現状を把握する為、平成21年6月から平成22年6月までの1年間に当院で治療を受けた患者115名を対象に「治療環境に関する調査」と題したアンケートを実施した。アンケート実施時期は治療最終日とし、アンケートの同意が得られない場合や治療予定回数前に治療を中止した場合、アンケート記載の困難な患者は対象外とした。

#### 3. アンケート内容

装置内温度、寝心地、テレビの見やすさ、音量、スタッフの対応、治療説明のわかりやすさに関しての各項目を5段階（良い・やや良い・適切・やや悪い・悪い）の評価とし、最後に高気圧酸素治療に対して気になった点を自由記載とした。

#### 4. アンケート結果

アンケート結果を図1に自由記載内容を図2に示す。寝心地に関して、やや悪い・悪いと回答した割合は32.8%であり、もっとも低い評価であった。

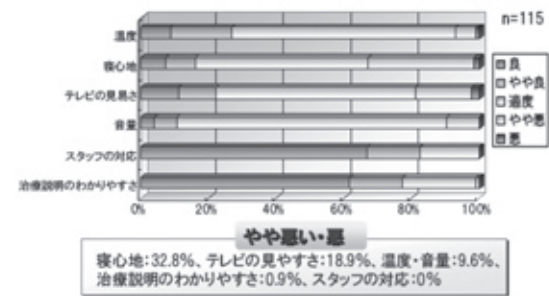


図1 『治療環境による調査』アンケート結果

治療	環境	スタッフ対応
<ul style="list-style-type: none"> <li>時間が長い: 10件</li> <li>雑音が多い: 5件</li> <li>温度: 5件</li> <li>狭い: 3件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マットレスが硬い: 9件</li> <li>テレビが見にくい: 7件</li> <li>首が痛くなる: 5件</li> <li>装置に光が反射して: 2件</li> <li>DVD等の購入: 3件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>声かけが少ない: 4件</li> <li>耳抜き説明がわかりにくい: 1件</li> </ul>

図2 『治療環境による調査』自由記載内容

#### 5. 改善策

アンケート結果から寝心地についての問題点が示唆された。そこで今回は、褥瘡管理でよく用いられる体圧分散マットを使用し、体圧分散マットと装置付属マットとの体圧差の検討、体圧分散マット使用前後での

アンケートの結果の比較を行った。

#### 6. マット素材

装置付属のマットと体圧分散マットの素材を図3に示す。

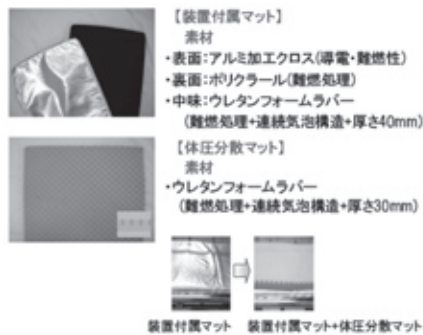


図3 マット素材

今回は普段使用している装置付属マットとその上に体圧分散マットを敷いた場合とで比較検討した。

#### 7. 改善結果

##### (1) 体圧測定

体圧測定には、マルチパット型簡易体圧測定器CelloCR-270(図4)を使用した。

体圧がかりやすい後頭部・肘部・肩甲骨部・仙骨部・臀部・踵部の6点に対し比較検討し、その結果を図5に示す。後頭部・仙骨部・臀部・踵部に対し有意差がみられた。



図4 マルチパット型簡易体圧測定器 Cello CR-270

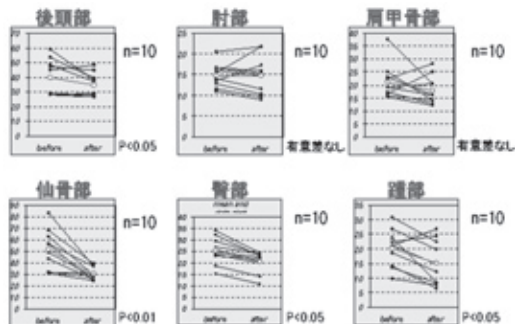


図5 対策前後での体圧差の比較

##### (2) アンケート結果

体圧分散マット使用後に再度アンケートを採った結果を図6に示す。

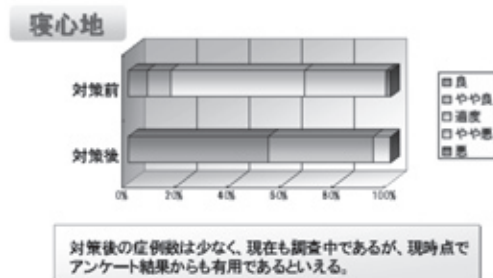


図6 対策前後でのアンケート結果の比較

#### 8. 考察

治療環境を評価する事は、特に装置内の空間が狭く、身動きがとりづらい第一種装置においては、大変重要であった。

現在も調査中ではあるが、現時点で体圧分散マットは体圧値・アンケート結果からも有用であるといえた。

当院ではその他の環境改善にも取り組んでいるが、装置固有の問題点もあり改善が困難なこともあるため、現場の声を広く取り入れてもらえるよう製造メーカーへの働きかけなどが必要であると感じた。